

2018年12月

地域の活性化と道の駅の活用についての考察 ～「滞在型道の駅」を中心として～

経営学部 経営学科 新井ゼミ
B5R11165 柳田真司

【卒業論文概要】

現在、地方が抱える問題は年々大きくなってきている。考えるだけでも高齢化、少子化、人材不足、観光資源の不足、地域コミュニティ、商店街の衰退などがある。そのような問題を地方にあるもので解決へ取り組むことはできないかと考えた。そこでよく地方で見かける「道の駅」に注目した。

本論文の目的は、現在全国に1,145か所ある「道の駅」、それらは地域の特性を活かしたものが多く、その中から優れた功績を集めている「道の駅」を選出し分析することで、「道の駅」と地域の活性化とを結びつける要素を見つけ出し、地方が抱える問題の解決への糸口を見つけることができないか考察し、今後の「道の駅」の在り方を明らかにすることである。

まず、「道の駅」という広すぎる分野を狭めるために、国土交通省が優れた「道の駅」として定めた「道の駅」全国モデルとして「道の駅」全国モデルとして登録されているもの、重点「道の駅」というものに注目した。そして地方が抱える問題の多くは人というものが大きく関わっていると考えた。休憩所、周辺の観光お土産を買うついでに立ち寄るのではなく、滞在することを目的とし訪れる『滞在型「道の駅」』というものに注目した。『滞在型「道の駅」』は、そこで過ごせるような様々なコンテンツがあり、見方によってはテーマパーク、観光施設とも捉えられる。国土交通省はこれからの「道の駅」の在り方として「道の駅自体が目的となる」と言う方針を掲げている。滞在型は規模が大きく様々なコンテンツがあり旅の目的地となりやすいため、この方針にとっても適している「道の駅」であると考えた。『滞在型「道の駅」』は先述したように様々なコンテンツがある、それは裏を返せば多くの施設がある分、そこで働く従業員が必要となってくると言うことである。就労の場が生まれ、地域の若者やIターン、Uターン者の受け皿となると考えられる。実際に本文でも大きく取り扱っている田園プラザでは100人規模の就労の場を確保できたとしている。

本稿では『滞在型「道の駅」』は多様な人の受け入れ方があり、多くの形で地域の活性化、課題の解決に大きく貢献できる可能性があるかと判断し、それに対する方策を提示した。